

2021年度 第9回 理事会 抄録

日 時： 2022年1月8日（土） 13：30～17：30

場 所： 日本理学療法士協会会館（WEB会議にて傍聴あり）

出席者

理 事： 齊藤、内山、大工谷、吉井、
湯元、清宮、佐々木、白石、森本、板倉、大淵、小川、梶村、
黒澤、高橋（哲）、高橋（仁）、田中、谷口、友清、西山、藤澤、松井

監 事： 太田、櫻田、辺土名

説明者：高橋 茂（選挙管理委員会 副委員長）

欠席者

理 事： 網本

監 事： なし

I. 審議事項

（全2題）

1. 2022年度 事業計画ならびに予算案について	（齊藤会長） 継続審議
<p>2022年度 事業計画ならびに予算案について審議された。 本日の議論を踏まえ、再度検討を進めた後、次回理事会において継続審議することとなった。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・新体制となったことを踏まえ、Ⅰ～Ⅲの大項目の見直しをされるのはいかがか。・本会としての中長期的なビジョンに伴う事業計画があり、結果的に職域の拡大が得られるという示し方でないと、対外的な理解が難しい部分もあるかと思う。・標準評価の確立について、国際的に承認されるプロセスが必要。協会独自の評価指標を展開していく点について、その点を十分に踏まえないと真に広まる評価指標とならないのではないか。・組織率改善に対して、具体的な事業を検討するのはいかがか。・収支予算書について、一見すると2年赤字のようにもとれる記載内容だが、会員にも理解をいただけるような表記が必要ではないか。 <p>→減価償却費による見かけ上の赤字という要素もあり、公益法人という立場においてはありうるもの。</p> ・会長就任時、会費のあり方について言及があったと記憶している。単年度の計画だとどうしても見えにくい部分もあるが、中長期的な視点での計画が見えるとよい。 <p>→協会全体の適正化をキーワードに事業を進めていく中の論点のひとつとして検討を進めてまいりたい。</p>	

2. 新入会員の承認について	(齊藤会長、内山副会長、大工谷副会長、吉井副会長)	承認
<p>2021年11月16日～2021年12月15日の間、新たに申請をした正会員248名、賛助会員1社の入会について審議され、承認された。併せて、復会者90名、休会者160名、退会者123名との報告がなされた。</p> <p><賛助会員 入会> CYBERDYNE 株式会社</p> <p>【主な意見】 意見なし</p>		

II. 報告事項

(全11題)

1. 2021年度実施日本理学療法士協会代議員選挙 補欠代議員数変更の報告	(選挙管理委員会)
<p>2022年1月から3月にかけて実施される代議員選挙の告示・実施要綱に関して、都道府県別補欠代議員数の下限数の変更が行われた件について、選挙管理委員会副委員長 高橋氏より報告がなされた。</p> <p>【変更対象事項】 都道府県別補欠代議員数の下限数を2名から3名に変更</p> <p>【変更理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代議員と補欠代議員の辞退数の集計結果により、士会によっては任期中に最大2名の辞退があることが判明した。 ・今年度選挙より代議員数が300名となり、一代議員の役割の重要性が増すことが考えられる <p>上記の点から、代議員数に欠員が生じた場合に備え、補欠代議員数の底上げをし、リスクヘッジを行うため</p>	

2. 2021年度 第3四半期職務執行状況報告	(各業務執行理事)
<p>各業務執行理事より2021年10月から12月まで(第3四半期)の業務執行状況について報告がなされた。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本パラスポーツ協会と連携して養成校へのパラスポーツに関する説明会を予定しているとのことだが、現在はどのような状況なのか。 <p>→先日アンケート調査を実施したところ。前回結果と比較し、増加傾向にはあるが広がりはないと認識している。養成校のカリキュラムの中で単位の読み替えがしやすいことを含めて周知を進めていく必要がある。 ・認定理学療法士臨床認定カリキュラムの教育機関が0件の分野がある点について、当該分野の受験を希望する会員が1名でもいた際には、会員の不利益につながらないよう対応策等を検討していただきたい。 ・住民参加型の介護予防事業について、認知症や地域包括ケアにおいて理学療法士が活躍していることを国 </p>	

民・会員に広報する必要がある。ご検討いただきたい。

・東京オリ・パラを通して、各士会でもスポーツ関連事業が盛んになっている。調査結果の情報提供、オリ・パラの報告を求めている士会が多いと聞く。今が絶好のタイミングと考えるが、今後の計画はいかがか。

→現在、アンケートを実施している。オリ・パラ記録集の活用については次年度以降検討してまいりたい。

・老健局振興課に関する事業に参画する会員も増えてきている。老健事業等に参加されて、次期介護報酬改定に向けての議論のポイントなどについて所感をお聞かせいただきたい。

→老健事業に関わる中でも、医療ニーズの高さを感じているところ。対象者をどのように評価していくのかという大きな議論がある。理学療法士が行える質の高い評価というよりも、他職種が理学療法の視点で評価を行い、連携に資する共通言語になるようなデザインが理想なのかもしれない。

・グランドデザイン策定事業について、本年度はどこまで実施することを目途とされているか。

→当初は、昨年度の委員会から目次案をいただき、本編・概要版を執筆することを想定していたが、目次の柱を太くしないと執筆に苦慮するという点が課題として明確になった。骨子の項目立てを現実的なものにすることを本年度実施することを検討している。

3. 常任理事会の会議報告について

(湯元専務理事)

2021年11月9日から11月30日の常任理事会の会議に関する報告がなされた。

4. 理学療法士作業療法士国家試験出題基準改定案について

(白石常務理事)

厚生労働省より意見照会のあった理学療法士作業療法士国家試験出題基準について、理事から提出された意見を常任理事会で取りまとめた回答や要望事項について報告がなされた。

5. 他団体から広報協力依頼を受けた際の運用について

(湯元専務理事)

HPのお問い合わせ等を通じて他団体から広報協力の依頼を受ける事例が多々ある。公平性と一貫性の観点から、一定のルールを定めて運用することについて報告がなされた。

6. 事務局報告について (12月)

(湯元専務理事)

11月、12月の会員動向について、報告がなされた。

7. 新包括的会員管理システムの構築状況について

(湯元専務理事)

新包括的会員管理システムの構築状況について、資料報告がなされた。

8. 腰痛予防普及促進事業「2020 職場における腰痛予防宣言事業」の再開について

(佐々木常務理事)

腰痛予防普及促進事業「2020 職場における腰痛予防宣言事業」の再開について、資料報告がなされた。

9. 2022年度理学療法士講習会の公募結果について

(白石常務理事)

2022年度理学療法士講習会を助成金事業として公募を行い、その結果について資料報告がなされた。

【概要】

公募期間：2021年10月1日（金）～11月14日（日）

件数：31件

【助成金有無】

助成金有：31件

【開催形式】

オンライン開催：15件、オンライン・対面併用開催：9件、対面開催7件

10. 協会雑誌編集部会の構成員について

(白石常務理事)

来年度より発行予定の日本理学療法士協会雑誌の編集部会の構成員について資料報告がなされた。

11. 第10回モンゴル理学療法士協会学会 参加報告

(斉藤会長)

12月3日に開催された第10回モンゴル理学療法士協会学会について資料での参加報告がなされた。

以上